

がんばり！！

NO. 22 (平成25年度 冬号)

赤十字奉仕団のみなさま、今年もよろしくお願ひします。

さて、2014年は日本赤十字社の救護活動にとって大きな転換期、節目の年となります。

これまでは災害等発生直後の対応に専ら主眼が置かれていましたが、災害発生前の防災・減災、更には応急対応が一段落した後の復旧・復興までを含め、いわゆる災害マネジメントサイクル全体にも日赤として主体的・積極的に関わっていきます。

今後は、防災全般のためになる情報やその時々々のトピック、各奉仕団の取組みなどの情報を、より密にかつ時宜を得て共有する必要があると考えています。皆様と一緒に、そして皆様のお力をお借りしながら、日赤の奉仕団活動を変えていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事業推進課長 鶴巻忠孝



佐渡市で赤十字ふれあい祭りを開催

多くの住民の方から赤十字奉仕団活動に対して、理解と協力をいただくために、初めて実施しました。

ハイゼックス(災害時炊飯袋)を用いた炊出しの試食や応急手当の体験、子供向けのアトラクションを行いました。

11月9日は、晴天にも恵まれて、多くの方が来場されにぎやかに開催されました。



こども赤十字加盟園で、地域奉仕団が活動

胎内市では、市内の全保育園・幼稚園から「こども赤十字」に加盟いただいています。

加盟園のひだまり保育園では、作品展の際に、わなげやキッズフォトやAEDの体験イベントを実施し、その運営に奉仕団が協力し、地域一体となった活動を行いました。



児童養護施設で「せきじゅうじアクション」を実施しました。

平成25年5月3日に児童養護施設の協力をいただき、「せきじゅうじ花絵*アクション」を実施しました。この「せきじゅうじ花絵*アクション」は、新潟県・新潟市の花であるチューリップ花を通して、児童・生徒が笑顔あふれる環境作りを目的として実施しました。

また12月22日に青年赤十字奉仕団が中心となり同じ施設で、参加者が笑顔で過ごせるよう「クリスマスお楽しみ会」を実施しました。

*花絵とは、チューリップ球根育成のため、開花後、摘みとり捨てられる花を使い、絵を作成するものです。(にいがた花絵プロジェクトより(一部改変))

<参加者の感想から>

- 大切なことは、同じ目線で一緒に活動することだと感じました。
- 初めての活動で、とても緊張したけど、フレンドリーに接してくれ、元気で優しさで助けられました。
- もっと、このような機会がふえるといいと思います。

平成26年度は、中越地域でも開催する予定です。



★赤十字奉仕団と職員が「リレー形式」で繋いでいきます！今、熱中していること、私の想い、趣味、近況をお伝えしていきます。

あなたは命の重さを何かに例えることができるでしょうか



嘱託指導講師
桑原 昭

私は十年前、中越大震災で震度七の震源地の小学校に勤務していました。そこで6年生が家の崩壊とともに犠牲となりました。以来、ひとりの子どもの魂を胸に「命の尊さ・重さ」に思いを持って全国へ講演活動を続けています。

さて、趣味は山菜採りです。山奥に入り、ふきのとう、ゼンマイ、ウド、タラの芽、木の芽、キノコ、胡桃…。採ったものは自分で食べることで、お世話になった人へ贈るのが私の流儀です。もう40年近く続けています。

私の赤十字精神はシュバイツァー博士、マザーテレサなどの生き様に学び、日赤への思いを高く持って行動することです。そのためにも、若いうちから赤十字活動に取り組むことが大事だと思っています。青年赤十字奉仕団連絡協議会の委員長さんと支援活動を共にして、そのひたむきな姿に心動かされました。

期待して赤十字のタスキを渡します。



新潟県立大学青年赤十字奉仕団 藤原 聖 さんへ

子ども育成支援活動では、大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いします！

東日本大震災3周年 特別番組放送のお知らせ

日本赤十字社には、100を超える国と地域からこれまでに約1,000億円の海外救援金が寄せられました。日本から海外へ「ありがとう」を、海外から日本への「支援に込められた想い」を伝え、海外救援金の概要や復興の現状を報告します。

<予定>

○日時 平成26年3月1日(土) 16~17時
○放送局 BS放送(BS-JAPAN)

赤十字への活動資金にご協力ください

みなさまからの活動資金への寄付により、災害救援活動やボランティアの育成、救急法講習会などの事業を実施できました。ありがとうございました。今後ともご協力をお願いします。

通年で、新潟県支部、各市区町村の赤十字窓口で寄付の受付をしています。

あとがき

昨年は、7月に中越地方を中心とした豪雨災害、10月には、上越地方を中心に台風による河川決壊などの災害が発生しました。被害に遭われた方への支援を各地域において、多くの奉仕団員から協力をいただき、活動を行っていただきました。

今年は、中越大地震から10年目の年です。災害を忘れず、「自助・近所・共助」が出来る備えをしていきたいですね。

最近、県国際交流協会の「災害多言語支援ボランティア研修」に参加しました。今回は、災害時の外国人支援を「やさしい日本語」で行う。「豪雨」「救護所」「義援金」などをみなさんは、外国人や子供へどのように伝えますか？

事業係 ましま

平成26年2月1日発行

発行：日本赤十字社新潟県支部事業推進課
〒951-8127

新潟市中央区関屋下川原町1-3-12

Tel.025-231-3121 Fax.025-231-3122

Mail.y-mashima@niigata.jrc.or.jp

次号は、3月末の発行を予定しています。